関西自然保護機構会報（17）61－70，1989

# 大津市長等公園付近における植生と植物相

大　谷　一　弘　（滋賀県野洲町立野洲中学校）
蓮　沼　　修　（栗東自然観察の森）

## Ⅰ．はじめに

大津市民の大部分は，日本文化の母胎ともいうべき「照葉樹林帯（ヤブツバキクラス域）」に生活している。しかし，こうした「ふるさとの森」は，その多くが人間の生活圏に成立しているため，古くから破壊され，現在では旧家の屋敷林や神社・仏閣境内の社寺林として，わずかに面影をとどめているに過ぎない。大津市中央部に位置する園城寺（三井寺）から長等公園にかけては，そうした自然植生が残存する数少ない地域のひとつである。ことに園城寺境内の樹林は古くから注目され，昭和10年には地元の植物研究家・橋本忠太郎により「三井寺暖地性植物群落」として報告されている（橋本，1935）。

1984年，この長等公園隣接地に高層マンションを建設する計画が発表され，建設に伴う自然破壊と環境悪化に強い危惧を抱く「長等公園の環境を守る会」の要請にしたがって，予定地域内の植生と植物相に関する調査を行った。限られた時間のため，十分な調査はできなかったが，以下に得られた資料を基に結果報告と若干の考察を行いたい。

なお，本調査の機会を与えて下さった「長等公園の環境を守る会」の方々，とりわけ調査の労をお取りいただいた事務局長の鈴木靖将氏に心からお礼申し上げる。

## Ⅱ．自然環境

調査対象地域は園城寺（三井寺）に近い都市公園・長等公園区域の北部隣接地，行政区域上は大津市長等二丁目から小関町にまたがる面積約5,200㎡の地域である（図１）。調査地の南部はアカマツやヒノキからなる針葉樹林，北部は住宅の密集した市街地になっている。地形的にみると調査地の中央部はかつて三井寺内尾蔵寺のあった寺跡で平坦であるが，その北側および南の後背地の地形は厳しく，急傾斜地域となっている。このため当地域に続く高観音近松寺の周辺域は，県の急傾斜崩壊危険区域に指定されている。

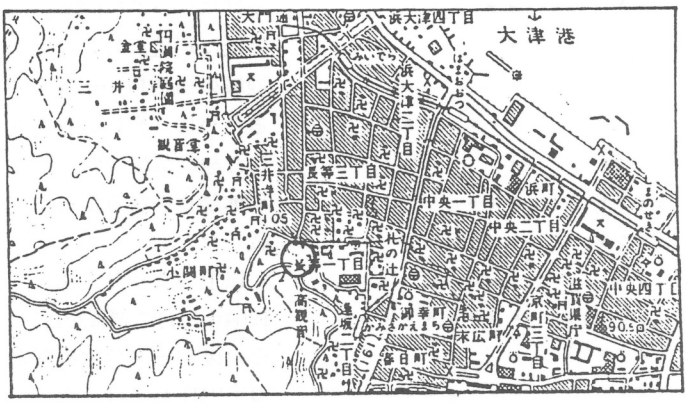



図１．調査地（○印）
1:25000 京都東北部（国土地理院　1984）

当地域の地質はチャート・頁岩などの中・古生層を主体として

表１．調査地点の立地条件等

| 地点番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 海抜高度（m） | 116 | 118 | 126 | 124 | 123 |
| 傾斜方位（°） | N10W | N36W | N16E | N18E | − |
| 傾斜角度（°） | 53 | 54 | 58 | 68 | 0 |
| 調査面積（㎡） | 15×15 | 15×15 | 20×15 | 10×10 | 3×3 |
| 出現種数 | 24 | 20 | 34 | 36 | 21 |

いるが，一部花崗斑岩類の貫入も見られる(西村・横山，1984)。当地域には断層が走っており，湧き水が多いことが指摘されている。さらに気候的に見ると，大津市は一般に瀬戸内式気候に属しているといわれているが，当地域は主として北向き斜面であり，日照条件が悪いので他の平地に比べて気温は低く，また湧水が多いこととあいまって湿度の高い気候条件になっている。

### Ⅲ．調査方法

建設予定地域内において，現地踏査による植生調査および植物相（フロラ）調査を行った。植生調査に際しては、まず調査区内に出現する植物について高木，亜高木，低木，草本の各階層に分け，階層別に完全な種のリストを作成した。ついで各層の出現種に対して優占度と群度（Braun-Blanquet，1964）を，また各階層毎の植被率をそれぞれ判定した。その他，海抜高度，微地形，土壌条件，人為的影響の有無など現地で判定可能なできるだけ多くの立地条件についても記録した。最後に現地点における当地域の植物相の把握をするために，植生調査で漏れた植物がないかどうか，現地踏査を繰り返して記載した。

以上のような方法で，1984年11月に調査を行い，その後データの分析などの室内作業を行った。

表２．林分の階層構造

| 地点 | 階層 | 高さ（m） | 種数 | 優占種 | 植被率（%）0 100 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 高木層 | 20 | 4 | シイ | ＊＊＊＊＊＊＊＊ |
| | 亜高木層 | 8 | 5 | イロハモミジ | ＊＊＊＊＊ |
| | 低木層 | 3 | 13 | アオキ | ＊＊＊＊＊＊＊＊ |
| | 草本層 | 0.8 | 11 | ベニシダ | ＊＊＊ |
| 2 | 高木層 | 18 | 2 | シイ | ＊＊＊＊＊ |
| | 亜高木層 | 8 | 9 | ヤブツバキ | ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ |
| | 低木層 | 3 | 9 | アオキ | ＊＊ |
| | 草本層 | 0.5 | 10 | ベニシダ | ＊ |
| 3 | 高木層 | 15 | 7 | シイ | ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ |
| | 亜高木層 | 6 | 5 | エゴノキ | ＊ |
| | 低木層 | 2 | 17 | ヒサカキ | ＊＊＊ |
| | 草本層 | 0.5 | 20 | ベニシダ | ＊＊＊＊＊ |
| 4 | 高木層 | 12 | 3 | イロハモミジ | ＊＊＊＊＊＊＊＊＊ |
| | 亜高木層 | 6 | 2 | ソメイヨシノ | ＊ |
| | 低木層 | 3 | 14 | アオキ | ＊＊＊＊＊＊＊ |
| | 草本層 | 0.5 | 24 | オオカナワラビ | ＊＊＊＊ |

## IV. 調査結果

### 1. 植生概要

(1) 立地条件

現地調査は均質な林分5箇所を選んで行った。それらの立地条件等をまとめたものが表1である。この中で地点1と2は調査地の北側，3と4は南側，5は中央部で調査した。地点5は低木群落であるが，1～4はすべて高木群落である。また，中央部の平坦地の地点5を除いては，他の林分の立地条件は全体として北向き（WNW～NNE）のしかも大変急傾斜の斜面となっている。

(2) 林分の階層構造

地点1～4の林分について，それぞれの階層構造をまとめ，比較してみた（表2）。地点1～3はシイ（コジイ）優占の林分で，4のみイロハモミジ優占の林分である。いずれの林分も草本層ではベニシダなどのシダ類が顕著である。高木層が植被率90%とよく繁茂している地点3と4では，1や2と比べて亜高木層は未発達であるが，一方草本層は種数も多く比較的よく発達している。これは光量などの自然条件の違いのほか，人為的影響の質的量的な違いの反映であると思われる。しかし，全体的に見て各階層で常緑植物（自然林要素）が多く生育しているなど階層構造は成熟した状態にあるといえる。

(3) 群落の組成と分類

今回調査した林分が植物社会学的群落単位のいずれに該当するか，既に報告されている滋賀県内の植生に関する資料（滋賀県植生調査研究会，1979）および大津市の植生資料（小林ほか，1979）と比較した。その結果，地点1～4はシイ－カナメモチ群集に，また地点5はススキ－セイタカアワダチソウ群落にそれぞれ同定した。以下に各林分の種組成や群落構造などについて記載する。

①シイ－カナメモチ群集（表3）

滋賀県内のシイ林は，滋賀県植生調査研究会（1979）によればすべてシイ－カナメモチ群集（中西ほか，1977）にまとめられている。本群集は最近ではコジイ－カナメモチ群集と呼ばれるようにコジイ林を主体としている。当地域のシイはコジイに同定されているものが大半をしめているが，スダジイあるいはそれに近いものも混生している。ここでは従来通り，シイ－カナメモチ群集とした。

地点1（写真1）は群集を特徴づけるカナメモチ，ソヨゴ，リンボク，ジュズネノキが生育しており，群集の典型的な部分であるといえる。高木層にはシイ，クスノキ，亜高木層にはイロハ

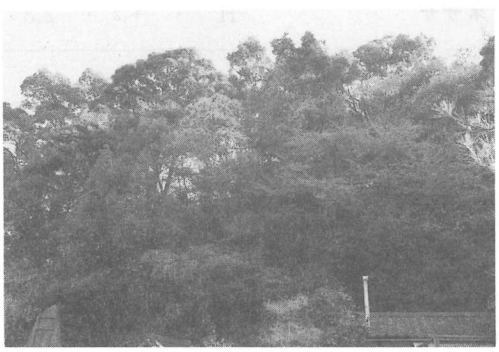


写真1．シイ－カナメモチ群集（地点1）の林相

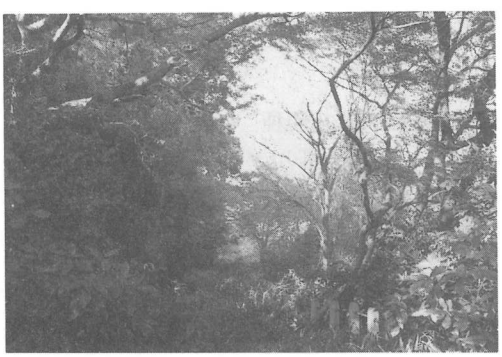


写真2．イロハモミジ優占林分（地点4）林相

## 表3．シイ－カナメモチ群集の組成表

| 地点番号 | | 1 | 3 | 2 | 4 |
|---|---|---|---|---|---|
| 出現種数 | | 24 | 34 | 20 | 36 |
| 群集標徴種・識別種 | | | | | |
| シイ | $T_1$ | 4.1 | 5.5 | 3.1 | ・ |
| | $T_2$ | 1.1 | ・ | ・ | ・ |
| | S | ＋ | 1.1 | ・ | ・ |
| | H | ＋ | 1.2 | ・ | ・ |
| カナメモチ | $T_2$ | ・ | ＋ | ・ | ・ |
| | S | 1.1 | 1.1 | ・ | 1.2 |
| | H | ＋ | 1.1 | ・ | ・ |
| ソヨゴ | S | ＋ | ・ | ・ | ・ |
| リンボク | S | ＋ | ・ | ・ | ・ |
| ジュズネノキ | H | 1.1 | ・ | ・ | ・ |
| スダジイ－ヤブコウジ群団標徴種・識別種 | | | | | |
| ベニシダ | H | 2.2 | 3.3 | 1.2 | 1.2 |
| シロダモ | S | 2.1 | ・ | 1.1 | ・ |
| | H | ・ | ・ | ＋ | ・ |
| ヤツデ | S | ・ | ・ | ・ | ＋ |
| | H | ・ | ・ | ・ | ＋ |
| ヤブラン | H | ・ | ・ | ・ | 2.2 |
| ナガバジャノヒゲ | H | ・ | ・ | ・ | ＋.2 |
| ヤブツバキオーダー・クラス標徴種・識別種 | | | | | |
| アオキ | S | 3.3 | ＋ | 1.2 | 4.4 |
| | H | 1.2 | ＋ | ＋ | 1.2 |
| ヒサカキ | $T_2$ | ・ | ＋ | ・ | ・ |
| | S | ＋ | 2.2 | ＋ | ＋ |
| イズセンリョウ | S | ・ | ・ | ・ | ＋ |
| | H | ＋ | ・ | ＋ | ・ |
| ヤブツバキ | $T_2$ | 2.2 | ・ | 4.4 | ・ |
| | H | ・ | ・ | ＋ | ・ |
| ネズミモチ | $T_2$ | ＋ | ・ | ・ | ・ |
| | S | ＋ | ・ | ・ | 1.2 |
| | H | ＋ | ＋ | ・ | ・ |

| 地点番号 | | 1 | 3 | 2 | 4 |
|---|---|---|---|---|---|
| アラカシ | $T_1$ | ・ | ・ | 2.1 | ・ |
| | $T_2$ | ・ | ・ | 3.1 | ・ |
| | S | ・ | ＋ | ・ | ・ |
| | H | 1.2 | 1.1 | ・ | ・ |
| イヌガシ | S | ・ | ・ | ・ | ＋ |
| | H | 1.1 | ＋ | ・ | ＋ |
| キジノオシダ | H | ＋ | 3.3 | ・ | ＋ |
| サカキ | S | ＋ | ＋ | ・ | ・ |
| クスノキ | $T_1$ | 3.1 | ・ | ・ | ・ |
| ヤブソテツ | H | ・ | ・ | ・ | ＋ |
| 伴生種 | | | | | |
| イロハモミジ | $T_1$ | ・ | ・ | ・ | 5.5 |
| | $T_2$ | 3.1 | ・ | 1.1 | 1.1 |
| | H | ・ | ＋ | ・ | ・ |
| タラヨウ | $T_2$ | ＋ | ・ | ・ | ・ |
| | S | ・ | 1.2 | ＋ | ・ |
| チャノキ | S | ・ | ・ | ・ | 1.1 |
| | H | ＋ | ・ | ＋ | 1.1 |
| ヒノキ | $T_1$ | 1.1 | 1.1 | ・ | ・ |
| | S | ・ | ＋ | ・ | ・ |
| フジ | $T_1$ | ・ | ・ | ・ | ＋ |
| | $T_2$ | ・ | ・ | ＋ | ・ |
| クズ | $T_1$ | ・ | ＋ | ・ | ・ |
| | $T_2$ | ・ | ・ | ＋ | ・ |
| | S | ・ | ・ | ＋ | ・ |
| アオツヅラフジ | $T_2$ | ・ | ・ | ＋ | ・ |
| | S | ・ | ・ | ・ | ＋ |
| ヤマハゼ | $T_2$ | ・ | ＋ | ＋ | ・ |
| フモトシダ | H | ・ | ・ | ＋ | 1.2 |
| ネザサ | H | ・ | ＋.2 | ・ | 2.3 |

上記以外の出現種

No. 1　ヤマザクラ$T_1$1.1 メダケS3.3 イヌマキS＋

No. 2　ビワS＋ ミツバアケビS＋,H＋, シュロH＋
ヤブムラサキH＋

No. 3　コシアブラ$T_1$＋,$T_2$＋,S＋ エゴノキ$T_1$＋
ウワミズザクラ$T_1$＋,S＋ タマミズキ$T_1$＋
モチツツジS＋.2 ホツツジS＋ クロモジS＋
カクミノスノキS＋ ムラサキシキブS＋
サルトリイバラS＋,H＋ ウラジロH2.3
ツルアリドウシH1.3 ササクサH＋ ネジキH＋
リョウブH＋ ゼンマイH＋ スゲspH＋
アキノキリンソウH＋

No. 4　ソメイヨシノ$T_2$2.1 オニドコロS＋
ビナンカズラS＋ イタドリS＋ ゴンズイS＋
オオカナワラビH2.3 ヤブミョウガH2.2
イワガネソウH2.2 イノデH1.2 シャガH1.1
イノコズチH＋ クサマオH＋ チヂミザサH＋
アゲビH＋ ヤエムグラH＋ ヤマネコノメH＋
セントウソウH＋

モミジ，ヤブツバキ，低木層にはアオキ，メダケ，アラカシ，シロダモ，ヤブツバキ，草本層にはベニシダが目立っている。シイは各階層に生育し，階層構造も比較的よく発達した自然性の高い林分である。

地点2ではカナメモチを欠いているが，スダジイ林に対する識別種として服部（1985）があげているタラヨウを含んでいることと地点1とは連続した環境にあることから本群集に同定した。高木層にはシイ，アラカシ，亜高木層にはヤブツバキ，アラカシが目立っているが，低木層，草本層は発達が悪く，全出現種数も20種と貧弱である。光量不足と下草刈りが階層の発達を妨げているようである。

地点3はシイが被度5で優占する林分で，亜高木層の発達が悪い。低木層にはヒサカキ，草本層にはベニシダ，キジノオシダ，ウラジロ，ヒサカキが目立っている。本林分にはウラジロ，モチツツジ，リョウブ，ネジキ，サルトリイバラなどアカマツ林（二次林）指標種が低被度ながら多数生育しているのが特徴である。これは遊歩道を隔ててアカマツ林に隣接している影響と思われるが，シイの幼・稚樹は確実に生育してきており，天然更新は可能である。しかし，今高木層を人為的に伐採すれば亜高木層が育っていないため，植生に大きな変化が生じ，急傾斜地とあいまって土地の崩壊が進む危険性があろう。

地点4（写真2）は相観的にはイロハモミジ優占群落であるが，このイロハモミジは植栽されたものと推定され，また組成的にみて自然林構成種を多く含んでいること，さらに地点3とは連続した環境にあることからシイは欠いているものの，本群集に含めて考えた。

高木層は胸高直径55cmにも達するイロハモミジが被度5で優占しているが，亜高木層には植栽されたソメイヨシノが見られるくらいで未発達である。一方，低木層はアオキが顕著で，草本層もオオカナワラビ，ヤブミョウガ，イワガネソウ，ヤブラン，ネザサなどが繁茂している。総出現種数は36種と他の林分より多い，とりわけ草本層にシダなどの草本類が多いことが特徴である。

本林分はイロハモミジの発達した根系とアオキなどの林床植物の繁茂によって，崩壊しやすい急傾斜地の安定化に大きく寄与しており，当地域の防災上，大変重要な役割を果たしていると考えられる。

②ススキーセイタカアワダチソウ群落（表4）

調査地中央部の平坦地には低木層にススキ，イタドリ，クズ，草本層にはミゾソバ，クサイチゴ，カモジグサなどから成る群落が成立している（地点5）。本群落をススキ，セイタカアワダチソウ，ヨモギを識別種とするススキーセイタカアワダチソウ群落（小林ほか 1979）に同定した。当地域はかつての寺院跡であるが，遷移の進行が遅い。これは踏圧など度重なる人為的干渉に加えて，日照条件が悪く，土湿が比較的湿潤であるため，アカマツなどの木本性先駆植物が侵入しにくいことによるものと思われる。しかし，ススキの生育によってクサギやヌルデなどの低木類も生育しはじめており，草本群落からマント群落へ移行しつつある。

2．植物相

(1) 高等植物目録（別掲）

植生調査区内に出現した植物に加えて，その他の調査対象地域内で確認できた植物の内，シダ植物以上の高等植物についてその目録を作成した。植物の分類や記録順序，和名はほとんど「日本植物誌」（大井，1972）にしたがった。同定未詳分を除く今回確認できた高等植物の総数は一部植栽も加え67科144種で，その内訳はシダ植物6科15種，種子植物木本類35科75種，草本類26科54種となっている。なお，調査は11月であり，フロラとしては不完全であることをお断りしておく。

表4．ススキーセイタカアワダチソウ群落（地点5）の組成表

| 階層 | 高さ（m） | 出現種 | 優占種 | 植被率（%） |
|---|---|---|---|---|
| 低木層（S） | 3.0 | 6 | ススキ | 40 |
| 草本層（H） | 0.8 | 17 | ミゾソバ | 100 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 群落識別種 | | | |
| ススキ | S 3.3 | カモジグサ | H 2.3 |
| | H +.2 | クサイチゴ | H 2.3 |
| セイタカアワダチソウ | H + | ヤエムグラ | H 1.2 |
| ヨモギ | H + | カンサイタンポポ | H 1.2 |
| 伴生種 | | フジ | H + |
| イタドリ | S 2.2 | イノコズチ | H + |
| クサギ | S 1.1 | エゾノギシギシ | H + |
| クズ | S 1.1 | ムラサキケマン | H + |
| | H 1.1 | ヒメクズ | H + |
| メダケ | S + | ウシハコベ | H + |
| ヌルデ | S（+） | カラスウリ | H + |
| ミゾソバ | H 5.5 | オオバコ | H + |

(2) 特筆すべき植物（貴重植物）

①シイ *Castanopsis cuspidata*（Thunb.）Schottky（ブナ科）

シイには分類学上，コジイとスダジイとがあり，またそれらの中間型のようなものもあって，区別は容易ではない。当地域内に分布するシイの大半はコジイに同定されると思われるが，両者の生態的特性が不明確なことから，今回は両者を含めてシイとした。調査地域内で最大のシイは，胸高直径78cm，樹高18mのものであった。暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）の代表的構成種の1種である。

②クスノキ *Cinnamomum camphora*（Linn.）Sieb.（クスノキ科）

わが国に産する樹木の中でも最も大きくなる常緑高木である。材は社寺の建築材や器具，樟脳が含まれていることから仏像などの彫刻に利用されたために，社寺境内に植えられていることが多い。当地域内に出現したクスノキは胸高直径82cm，樹高20mであった。

③タラヨウ *Ilex latifolia* Thunb.（モチノキ科）

雌雄異株の常緑高木で，シイ林内に多く，寺院などに植えられていることも多い。冬から春にかけて赤い実の塊りをつける。また大きな葉は裏に文字を書きつけると黒く浮き出るので，紙のない時代に経文を書くのに使われたといわれる。

④リンボク *Prunus spinulosa* Sieb. et Zucc.（バラ科）

暖温帯山地に分布する常緑高木で，若木の葉縁には鋭い棘があることから，ヒイラギガシともいわれる。樹皮からは赤褐色の染料を採り，紙を染めるのに使われる。当地域では低木のものが

わずかに生育しているにすぎない。

⑤クロバイ　*Symplocos prunifolia* Sieb. et Zucc.（ハイノキ科）

暖温帯山地に分布する常緑高木で，特に照葉樹林に覆われた山腹などに見られる。調査区内のものは樹高3 *m*程度であるが，大きいものは樹高10*m*，胸高直径30*cm*以上に達することもある。近畿の洪積層から果実の化石が報告されている。

⑥イズセンリョウ *Maesa japonica*（Thunb.）Moritzi（ヤブコウジ科）

暖帯性樹林の林床などに群生する小低木で，ややつる状になる性質がある。紀伊半島沿岸部あたりには多く見られるが，本県における分布は限られており，当地域の狭い範囲に生育しているのは大変貴重である。

⑦ツガ　*Tsuga sieboldii* Carr.（マツ科）

高木の常緑針葉樹で，山地でしばしばモミと混生する。別名トガというのは咎（とが）人をはりつけるのに用いた木に由来するとの説がある。材は建築材，器具，パルプなどに利用され，また樹皮からはタンニンを採り，魚網を染めるのに使われる。調査地域内には1本あり，樹高20*m*，胸高直径72*cm*で植栽したものと思われる。

## V．まとめと提言

1．調査地内の植生は大別してシイ－カナメモチ群集（シイ優占林分，シロハモミジ優占林分），ススキ－セイタカアワダチソウ群落の2群落から成っている。

2．シイ－カナメモチ群集は数少ない原始的な自然林のサンプルであり，学術的教育的に貴重であることはいうまでもないが，当地域においては特に土地崩壊などの自然災害の防止，水源かん養，保健休養，風致など多様な機能を有していると推察され，保護・育成を要する植生である。

3．イロハモミジ優占林分は急傾斜崩壊危険区域に位置しており，小面積ながら防災上，最も重要な役割を果たしている植生で，一切の樹木伐採を禁止するなど厳重な保護を要する。

4．ススキ－セイタカアワダチソウ群落域は現状の改変が可能であるが，大規模な建物の建造は避け，適種を植栽してベンチを設け，遊歩道を敷設するなど自然公園化が望ましい。

5．当地域内に生育するシダ植物以上の高等植物は67科144種が確認できた。この中には分布上貴重と思われるイズセンリョウやリンボク，またシイ，クスノキ，ツガなどの大径木が生育していた。これらの大径木は保護樹木などに指定して保護していくことが望ましい。

6．当地域は法律上は都市公園の指定区域外（市街化区域）にあるとはいえ，位置的景観的にはもちろん，生態系の上からも連続した環境にあり，当地域の植生破壊による影響は地域内にとどまらず，自然林の残る周辺地の植生や動物相にもおよぶことを看過してはならない。したがって，こうした事についても十分な調査を実施する必要がある。

## VI．引用文献

Braun-Blanquet,J. 1964. Pflanzensoziologie, 3 Aufl., 865pp. Wien.

橋本忠太郎. 1935. 三井寺暖地性植物群落.　滋賀県天然記念物調査報告 第2集, 1－9. 滋賀県.

服部保. 1985. 日本本土のシイ－タブ型照葉樹林の群落生態学的研究. 神戸群落生態研究報告 第1号, 98pp. 神戸.

小林圭介・神野展光・廣田義明. 1979. 大津市の植生. 滋賀県の自然（総合学術調査研究報告),

931－967. 滋賀県自然保護財団，大津.
中西哲・武田義明・服部保. 1977. 播磨西部地域の植生. 播磨西部地域植生調査報告書，70－144. 播磨西部地域植生調査研究会，神戸.
西村進・横山卓雄. 1984. 長等公園付近の地質（未発表資料）.
大井次三郎. 1972. 日本植物誌 顕花篇，1560pp. シダ篇，244pp. 至文堂，東京.
滋賀県植生調査研究会（小林圭介代表）.1979. 滋賀県の植生. 滋賀県の自然（総合学術調査研究報告），969－1048. 滋賀県自然保護財団，大津.

**調査地域内の高等植物目録（※印は植栽）**

シダ植物

| | |
|---|---|
| ハナヤスリ科 | オオハナワラビ |
| ゼンマイ科 | ゼンマイ，カニクサ |
| ウラジロ科 | ウラジロ |
| ワラビ科 | イワガネソウ，イワヒメワラビ，フモトシダ，ワラビ |
| キジノオシダ科 | キジノオシダ |
| オシダ科 | ベニシダ，ヤワラシダ，ヤブソテツ，イノデ，オオカナワラビ，ナライシダ |

種子植物

木本類

| | |
|---|---|
| マキ科 | イヌマキ |
| マツ科 | ※ツガ |
| スギ科 | ※スギ |
| ヒノキ科 | ヒノキ |
| イネ科 | メダケ，ネザサ |
| ヤシ科 | ※シュロ |
| ユリ科 | サルトリイバラ |
| ブナ科 | シイ，アラカシ，コナラ，シラカシ |
| ニレ科 | ムクノキ，エノキ |
| クワ科 | イタビカズラ |
| アケビ科 | アケビ，ミツバアケビ |
| メギ科 | ナンテン |
| ツヅラフジ科 | アオツヅラフジ |
| モクレン科 | ビナンカズラ |
| クスノキ科 | ※クスノキ，シロダモ，イヌガシ，クロモジ |
| ユキノシタ科 | ノリウツギ，ウツギ |
| バラ科 | カナメモチ，カマツカ，ウワミズザクラ，※ソメイヨシノ，ヤマザクラ，リンボク，ノイバラ，クサイチゴ，フユイチゴ，ナガバモミジイチゴ，ビロードイチゴ，※ヤマブキ，※ビワ |
| マメ科 | フジ |
| トウダイグサ科 | アカメガシワ |

| | |
|---|---|
| ウルシ科 | ヌルデ，ヤマハゼ,ヤマウルシ |
| モチノキ科 | イヌツゲ，モチノキ，タラヨウ，タマミズキ，ソヨゴ，ウメモドキ |
| ミツバウツギ科 | ゴンズイ |
| カエデ科 | ※イロハモミジ |
| ブドウ科 | ツタ |
| ツバキ科 | ヤブツバキ，サカキ，ヒサカキ，チャノキ |
| ウコギ科 | コシアブラ，タラノキ，ヤツデ |
| ミズキ科 | アオキ |
| リョウブ科 | リョウブ |
| ツツジ科 | ネジキ，モチツツジ，ホツツジ，カクミノスノキ |
| ヤブコウジ科 | マンリョウ，イズセンリョウ |
| ハイノキ科 | クロバイ |
| エゴノキ科 | エゴノキ |
| モクセイ科 | ネズミモチ |
| クマツヅラ科 | ムラサキシキブ，ヤブムラサキ，クサギ |
| アカネ科 | ジュズネノキ |
| スイカズラ科 | コバノガマズミ |
| キク科 | コウヤボウキ |
| 草本類 | |
| イネ科 | カモジグサ，ノガリヤス，ササクサ，アシボソ，ススキ，チヂミザサ |
| ツユクサ科 | ツユクサ，ヤブミョウガ |
| ユリ科 | ヤブラン，ナガバジャノヒゲ，オモト |
| ヒガンバナ科 | ヒガンバナ |
| ヤマノイモ科 | オニドコロ |
| アヤメ科 | シャガ |
| ショウガ科 | ミョウガ |
| ドクダミ科 | ドクダミ |
| イラクサ科 | ミズ，ヤブマオ，クサマオ |
| タデ科 | ハナタデ，イタドリ，ミズヒキ，イヌタデ，ミゾソバ，エゾノギシギシ |
| ヒユ科 | イノコズチ |
| ナデシコ科 | ウシハコベ |
| ケシ科 | ムラサキケマン |
| アブラナ科 | イヌガラシ |
| ユキノシタ科 | ヤマネコノメソウ |
| バラ科 | ヘビイチゴ |
| マメ科 | ノササゲ，ノアズキ，クズ |
| フウロソウ科 | ゲンノショウコ |
| カタバミ科 | ムラサキカタバミ |

| | |
|---|---|
| ブドウ科 | ヤブガラシ |
| スミレ科 | タチツボスミレ |
| セリ科 | センウソウ，ミツバ |
| オオバコ科 | オオバコ |
| アカネ科 | ヤエムグラ，ツルアリドウシ，ヘクソカズラ |
| ウリ科 | カラスウリ，アマチャヅル |
| キク科 | ヨモギ，オオアレチノギク，ヒヨドリバナ，セイタカアワダチソウ，アキノキリンソウ，カンサイタンポポ |